

令和5年度第1回検討委員会開催後における アンケートについて

【アンケート概要】

対象者	中央図書館建替再整備検討委員会委員7名
回収率	100%（7名中7名全員提出）
実施方法	第1回検討委員会の際にアンケート用紙を配布。後日、アンケート様式のデータをメールで送付し、メールにより提出を依頼。

【アンケート項目】

(1) 中央図書館の役割について（佐久市の場合）
(2) 地域館の役割について（佐久市の場合）
(3) 現在の佐久市立図書館の課題
(4) 今後調査・分析が必要な事項
(5) その他

【アンケート回答（一部抜粋）】

(1) 中央図書館の役割について（佐久市の場合）

項目	回答内容
機能面	<p>■中央図書館の一般的な機能として、①地域図書館としての機能 ②レファレンス・サービス ③図書館サービス網の運営、推進 ④移動図書館の基地。現在の佐久市立中央図書館はこれらの機能を備えているが、図書館の在り方を考えると見直しが必要である。</p> <p>例)・レファレンス・サービス → 地域資料の収集・蓄積・活用、課題解決支援・障がい者サービス等の「多様な利用目的・利用者層に応えるサービス」</p> <p>・図書館サービス網 → （地域館にとどまらず、民間の文庫・ライブラリー等を含めた類縁施設の）地域情報サービス・ネットワーク</p> <p>・移動図書館（BM）の基地 → （地域情報サービス・ネットワーク拠点を介したものを含めた）館外サービス全般</p> <p>こうした変化が必要だとしても、すべてを図書館が直接担うことは無理。図書館への負荷がかかりすぎない分散的なネットワークをつくるためのシクミ・シカケづくりが重要である。</p> <p>■さまざまな観点でのバリアフリー。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ■市内図書館ネットワークシステムや図書館物流ネットワーク等の基盤整備。 ■地域各所にある知、リソース、ニーズのインデックスを編集し、発信していく地域編集局。 ■地域のテーマを共に考えていく機能。 ■文化・ビジネス・生活の情報発信、コミュニティ活動の中心になる。(イベントスペース、カフェスペース、自由に話ができるスペース、借りやすい会議室など)
サービス面	<ul style="list-style-type: none"> ■佐久地区ならではの文化や、社会課題解決に資する資料整備・サービス。 ■蔵書コレクション構築、デジタルとのハイブリッド化計画。 ■幅広いジャンルの蔵書(専門書やレファレンス図書など) ■中央図書館、地域館のサービスが届きづらい地域へのサービス。 ■経済的環境によらず、最先端の情報環境に触れたり学んだりできる役割。 ■電子書籍の貸し出しやオンラインでレファレンスが受けられるようなデジタル・オンライン対応の構築。
連携	<ul style="list-style-type: none"> ■地域内の図書館類似施設、公民館等社会教育施設、学校等との連携。 ■地域文化の振興、新しい学びの在り方への対応、産業や観光、防災、子育てや高齢者見守り、DX等、様々な課題の解決にむけた関係部署との連携。 ■東信(佐久)地区の図書館との横連携。 ■県立長野図書館や県外の図書館、国立国会図書館との橋渡し。
理想像	<ul style="list-style-type: none"> ■周辺地域への「気軽な利用」に供する図書館の働きと、市域全体からの利用者を集める「頼りになる」図書館としての働きの両立。 ■居心地の良い図書館。 ■あらゆるひとの居場所。 ■図書館を活用した学び・人的交流のハブとしての役割。 ■地域のニーズ(課題、可能性など)の察知を行う場所。 ■「わざわざ出掛けるリアルな場所」としての魅力を持つべきである。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ■地域館のサポート。 ■セーフティネットとしての役割(地域館・図書館類似施設が所蔵する資料も含めた貴重な資料の保全) ■特色がわかりにくく、住民にとって「中央館である」という意識は薄いように思う。

(2) 地域館の役割について(佐久市の場合)

項目	回答内容
機能面	<p>■地域図書館の基本的な機能として、①貸し出し、予約、読書案内 ②軽易なレファレンス・サービス ③集会活動、行事の実施と施設の提供 であるが、佐久市の地域館はこれらの機能をすべて備えていると思う。しかし、これらの言葉のもつ意味は、今後、大きく変化することになる。周辺地域の「地域情報サービス・ネットワーク」とのかかわりを地域館もある程度担うことは、各地域の独立性が比較的高い佐久市においては重要である。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ■近隣の住民も含む、各地域への直接サービス機能。 ■さまざまな観点でのバリアフリー。 ■エリアごとの多様な歴史や風土の特色を出した選書や空間づくりが必要。地域図書館を含めてもっと特色を前面に出すと、場としての多様性が生まれると思う。
サービス面	<ul style="list-style-type: none"> ■各地域ならではの文化や、社会課題解決に資する資料整備・サービス。
連携	<ul style="list-style-type: none"> ■（視察した地域館は）しっかりした建物であり、面積や蔵書数も十分だと思われる。「それぞれの地域の図書館」として、中央館と連携して活動を継続することがよしい。 ■地域内の図書館類似施設、公民館等社会教育施設、学校等との連携。
理想像	<ul style="list-style-type: none"> ■居心地の良い図書館
その他	<ul style="list-style-type: none"> ■中央図書館で行われている活動が共有できる仕組みが必要。中央館と地域館での情報格差をできるだけ小さくするために、中央館での活動が見える「窓」のような仕組みが必要である。 ■地域の人が本に触れる場。書店の代替機能。 ■地域の歴史・文化を継承・アピールする場。 ■浅科図書館の地域外の人登録者数が多いのは、近くに交流文化館や入浴施設があることに加えて、図書館の建物自体の魅力・居心地の良さが大きいのではと感じた。他の地域館でも「地域の人居場所」機能を充実させることは可能だと思う。 ■望月図書館や浅科図書館は町村時代の運営をそのまま引き継いでいるように感じる。合併で佐久市の地域館になったものの、この図書館以外を知らないという住民も多いはずである。各館をオンラインで結んで合同イベントや中継によるバーチャル見学会など、市内の図書館を結ぶことで、新たな佐久市の魅力発見や人と人の出会いが生まれると思う。

(3) 現在の佐久市立図書館の課題

項目	回答内容
施設管理等について	<ul style="list-style-type: none"> ■施設設備の老朽化への対応。 ■貴重な資料の集中管理・保全に適した設備の整備。
スペース等の機能の充実	<ul style="list-style-type: none"> ■静かなエリア、にぎやかなエリアといった、スペースのゾーニング。 ■従来の図書館機能に加え、ニーズに沿ったスペースの拡充。 ■資料の閲覧のみならず、交流も含めた機能・スペースの充実。
図書館運営の充実	<ul style="list-style-type: none"> ■各スペースの空間機能をより活かすプログラムの実施。(インプット＋アウトプット、地域文化を創るという「公立図書館の任務と役割」の観点。) ■市民参加型の図書館運営。 ■貴重な資料を活用・保全する手段としてのデジタルアーカイブ化。 ■展示や企画は、子ども向けが中心なので、大人向け、とりわけ高齢者の興味関心にこたえることも意識してもいいのではと思った。

	<ul style="list-style-type: none"> ■デザイン性（コンセプトの薄さ、広報、館内展示や装飾の古さ）
人材育成等	<ul style="list-style-type: none"> ■中央図書館の新たな役割に沿った事業を遂行できる人材確保・育成。 ■身近で十分なサービスが可能となる人的体制のキープ。 ■貴重な資料を確実に次世代に継承していくための施設・人的体制。
アクセス手段の課題	<ul style="list-style-type: none"> ■若者の交通アクセスの課題。学生も利用可能な小海線の駅周辺に建て替えるべきだと思うが、現位置に建て替えをするのであれば、アクセスの課題に向き合うことが大人の責任だと思う。 ■アクセス手段の確保。 ■どの館も交通の便がいいとは言えない。何かのついでではなく目的を持って行く場所。だからこそわざわざそこへ行くことの付加価値が必要。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ■市域が広大であることや合併という経緯から、地域館と中央館の一体感、連携関係を深めることが必要である。 ■「佐久市立図書館概要」は掲載されたデータから図書館像がいきいきと浮かび上がるようにするため、まだ手を加える必要がある。図書館の事業目標、課題と現状認識、事業目標と個々の事業の関係等が体系的に示されたものを、職員間、市役所内、市全体で共有されることが望ましい。それをつくるプロセス自体が、課題の発見と解決に向かう学びのプロセスになると思う。 ■図書館に行ったら何か新しい出会いがあるという期待感の誘発。 ■空間的にも実態的にも「図書館は図書館だけでやっている」という印象を受けた。例えば、子育て世代の抱えている課題×図書館、学校や地域経済が抱えている課題×図書館など、市民の課題や地域の課題との掛け算で図書館が果たせる役割がないか検討してみるのはいかがでしょうか。 ■（見学は平日の昼間）「人がいないな」と思った。展示をいろいろ工夫しても「もったいないな」と思ってしまう。

(4) 今後調査・分析が必要な事項

項目	回答内容
図書館の利用について	<ul style="list-style-type: none"> ■遠方からでも中央館に行ってみよう、利用してみようと思ってもらえるような仕掛けにはどのようなものが考えられるか。 ■ヘビーユーザーはどういった理由で中央館を利用するために来ているのか。 ■新図書館を未来に受け継いでいくのは若い市民。彼らのニーズ調査と合わせて、若者の利用が多い図書館はどのようなハード上、ソフト上の工夫をしているのか。
図書館運営を担う主体者の役割	<ul style="list-style-type: none"> ■職員やボランティアのみなさんの課題意識や、こうありたい（あってほしい）という願いを目に見えるようにしていくことが重要。
図書館に期待すること	<ul style="list-style-type: none"> ■佐久平駅周辺などの「新住民」はどのような図書館を望んでいるのか。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ■新中央図書館は駒場公園内に建設することになるのではないかと思います

	<p>れるが、そのことの妥当性を全佐久市民に納得していただくためにも、人流データの分析や公的交通機関の状況、自家用車の所持状況等が分かればと思う。</p> <p>■図書館内部や現在の利用者のことを調査・分析するのではなく、図書館とつながる可能性を広げていくための各所への「御用聞き」を行うことが重要に思う。</p> <p>■佐久広域における高校生、大学生の学び場(人や情報に触れられる場所)の洗い出しと関係組織の持つ課題の共有。</p>
--	--

(5) その他

項 目	回 答 内 容
視察研修について	<p>■市域の広さや地域によってずいぶん雰囲気が違うことが実感できた。地域館の立派さには驚かされた。</p> <p>■五郎兵衛記念館と天来記念館を視察したことは、感動的な体験だった。市の歴史的・文化的に貴重な財産であることが、館内の展示と情熱的な館長さんを通じて伝わってきた。他にも重要な文化施設がいくつもあると思うが、地域情報サービスネットワークを構想することで、豊かな地域資源を活かした個性的な図書館事業が可能になるのではないかと感じた。</p> <p>■浅科、望月図書館に加え、五郎兵衛記念館と天来記念館を見学させていただき、改めて「地域のものは地域で」ということの大切さを感じた。これからも十分な人的体制と施設の維持、資料の保全・活用が図られることを願っている。将来、個別施設の維持が難しくなってしまうことがあれば、十分な受け入れ体制がつくられることを望んでいる。</p>
その他	<p>■図書館で、指定管理者制度の導入は検討しているのか。</p> <p>■来館者数・本の回転率の向上などの成果主義的目標は求められていないのでしょうか。</p>